

A large group of Japanese handball players and staff are gathered on a court, celebrating. Many are wearing white handball jerseys with "ANA" and "JAPAN" logos. Some are wearing blue or red jackets. They are all smiling and cheering, with some raising their fists. The background shows a large arena with spectators.

事業成果報告書

中央競技団体の経営力強化推進事業
-令和2年度実施報告/令和3年度実施計画-

目次

1. 本事業における方向性（全体像）
2. 成長曲線シミュレーション
3. 日本ハンドボール界の現状と課題
4. 令和2年度実施報告
5. 令和3年度実施計画

目次

1. 本事業における方向性（全体像）

2. 成長曲線シミュレーション

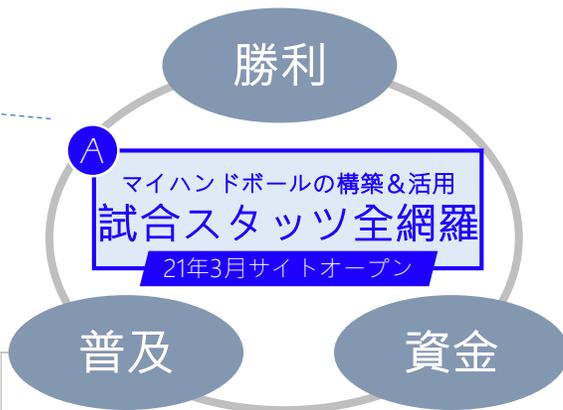
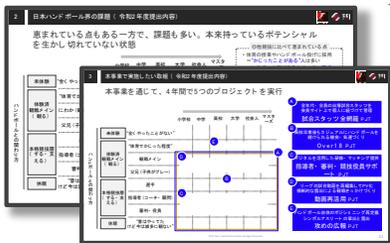
3. 日本ハンドボール界の現状と課題

4. 令和2年度実施報告

5. 令和3年度実施計画

アンケート調査の示唆も活用しながら、5つのプロジェクトを具現化する。
(さらに本事業の外側でも、VMV策定や協賛企業との共同マーケティングを推進中。全体での経営力強化を図る。)

スポーツ庁採択済



JHAならではの言語化
VMV*策定
21年7月リリース

*ビジョン・ミッション・バリュー



E 他競技からの転向促進 攻めの広報 推進中

B ライトなプレー機会創出 Over18 推進中

D 見たいシーンを&SNSなど最適な接点で 動画再活用 推進中

C eラーニングシステム 指導者/審判サポート 推進中

※ノウハウ 確立後に 横展開

※ビーチから 先行実施中

スポーツ苦手意識を軽減 教育プログラム 推進中

家族や友人を誘いやすくする 大会のエンタメ化 推進中

Win-Winな施策立案 共同マーケ 推進中

※見る人・興味層を 増やすことで 放映権販売でTVへ

買いたくなる 商品企画 検討予定

紙のタダ券を脱却 電子チケット

推進事業など 積極応募

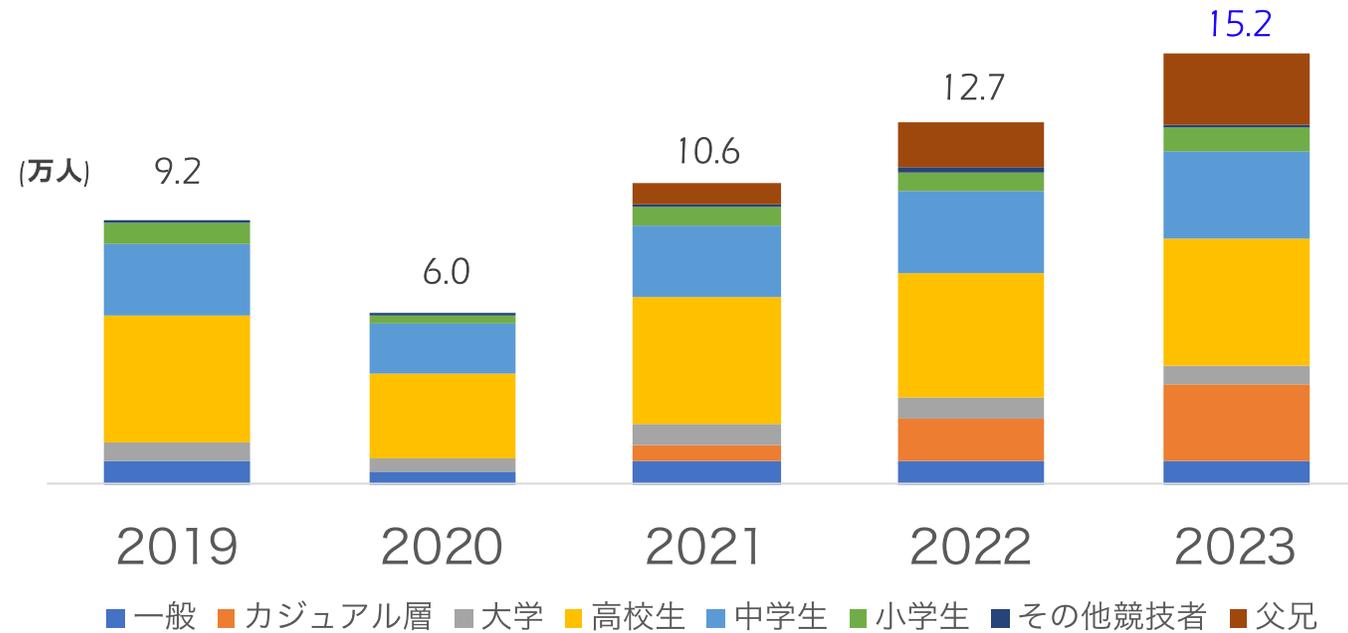
買いやすい EC整備 検討予定

グッズ/特別体験付き 高単価チケット

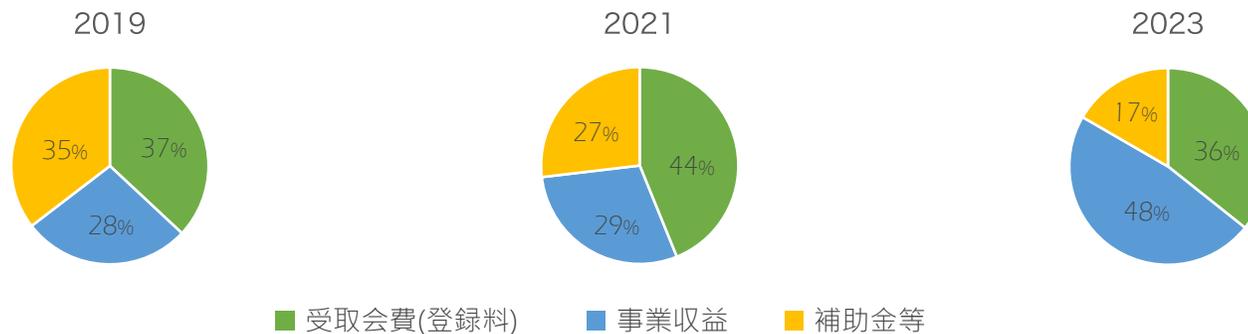
*21年2月 アンケート調査によりニーズを確認済

戦略性を伴った競技関連人口の拡大と、**収益構造の变革**を実現する

協会登録者数



協会収入構成比



- コロナウイルスの影響で**2020年度は登録者数が一時的に減少する**見込み。(2021年には一定回復と予想)
- マイハンドボールと本事業での施策を通して、**カジュアル層や父兄を獲得**。全体登録者数を伸ばす
- 広告料や入場料といった**事業収益の拡大**にともなって、**登録者一人あたりの会費単価は軽減**し負担を減らす。助成金や強化支援金の終了も織り込んだ収益構造シフトを想定

目次

1. 本事業における方向性（全体像）
2. 成長曲線シミュレーション
3. 日本ハンドボール界の現状と課題
4. 令和2年度実施報告
5. 令和3年度実施計画

世界209ヶ国・2700万人がプレー
 欧州では有名プロクラブも参入している、人気スポーツのひとつ

国際連盟には世界209ヶ国が加盟
 (野球は124ヶ国)



2700万人

バルセロナやパリサンジェルマンも
 ハンドボールチームを運営



日本も男女ともに「海外組」を輩出しはじめており、国内トップリーグには東京拠点のチームも設立 → いよいよ **市場拡大を狙える段階**へ突入

海外主要リーグでプレーする日本人選手たち



東京拠点のチームがトップリーグに参入決定 東京ヴェルディもチーム創設へ

Home > ニュース > 東京トライスターズが「ジークスター東京」としてJHL参入へ

News

東京トライスターズが「ジークスター東京」としてJHL参入へ

「東京から世界と戦えるハンドボールのトップチームを！」をコンセプトに2018年4月に創部され、昨年7月に2020-21シーズン（第45回）から日本リーグ（JHL）への参入を発表していた「東京トライスターズ」。3月30日に、チーム名を「ジークスター東京（英語表記：ZEEKSTAR TOKYO）」と改め、新たなスタートを切ることを発表しました。

ITコンサルティング事業などを行なうフューチャー株式会社を「ジークスタースポーツエンターテインメント株式会社」を設立し、東京トライスターズのチーム及び運営を引き受け、体制を変更したうえで再出発すること。

新しいチーム名は、ハンドボールの本場ドイツで「勝利」を意味する「ジーク（Sieg）」から着想を得て、しっかり勝ち星



NEWS 7月20日

@ZeeStarTokyoさんのツイート

ジークスター東京

東京Vがハンドボール参入 5月5日チーム創設予定

[2020年4月24日6時1分]

ツイート BI



J2東京ヴェルディのハンドボール参入日、分かった。

バレーボール、トライアスロンなどをやる同クラブが、ハンドボールにも着目し、元男子日本代表主将の東俊介氏（44）がゼネラル・マネージャー（GM）に設立2を目標として5月にもチームを立ち上げ、集めからスタートする。

東京ヴェルディのロゴ（2020年1月20日撮影）



東京Vは昨年、女子ホッケーや3人制バレーボールチームなどを創設。五輪がめられた20年に向けて、すでに15チームを創設していた。Jクラブでは湘南ベルマーレ、J2レックス新潟が総合型として他の

2021年1月の男子世界選手権では12大会、24年ぶりにメインラウンド進出
Twitterで、「#彗星JAPAN」がトレンド入りを果たす程の盛り上がり

「トレンド入り祭り」の仕掛けによるトレンド入り



インプレッション：205,541

外部メディア(スポーツナビ)への投稿強化



前半2点差で折り返し、食らいついた彗星JAPAN デンマークに対し今大会最少点差

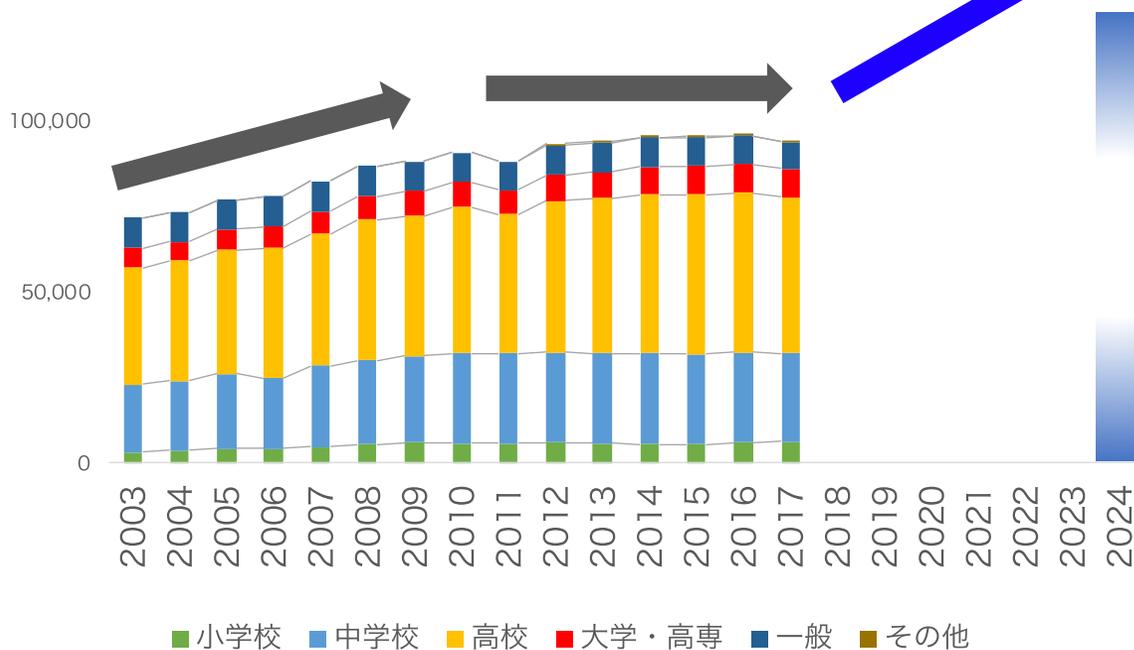


デンマーク戦で今大会初得点を挙げたRW出村直樹選手【Yuhiko TAGUCHI / JHA】
エジプトで開催中の第27回男子ハンドボール世界選手権で23日（日本時間24日未明）、日本はメインラウンド第2戦で、リオオリンピックと前回世界選手権を制しているデンマークと対戦しました。
※試合は国際ハンドボール連盟（IHF）のYouTubeチャンネルで配信され、録画でもご覧いただけます（この記事の下部にリンクあり）。

ハンドボールファン以外への情報発信の他に、メディア記者へのネタ元としての役割も果たした。

従来の成長モデルだけに依存せず、
いかに**仕組みと仕掛け**によって、競技人口拡大・収益強化を実現するか

競技登録者数の自然増は鈍化
→どのセグメントを/どうやって伸ばすか？



構成比
(2017年)

7%

27%

48%

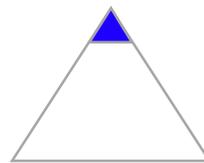
9%

8%

0%

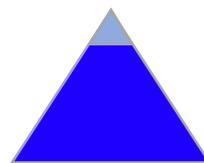
「国際大会での大活躍」だけに依存しない
競技人口拡大モデルが不可欠

従来型



トップオブトップの集中強化
→ 国際大会で優勝・メディア露出
→ 憧れて競技をはじめめる子ども増加
(= 目覚ましい活躍がないとブームにならない)

目指す姿



(トップ層の強化はしつつも)
登録費を払っている競技者全体を意識
→ 競技登録を続けるメリットをきちんと還元
→ 離脱を減らし登録者数を拡大

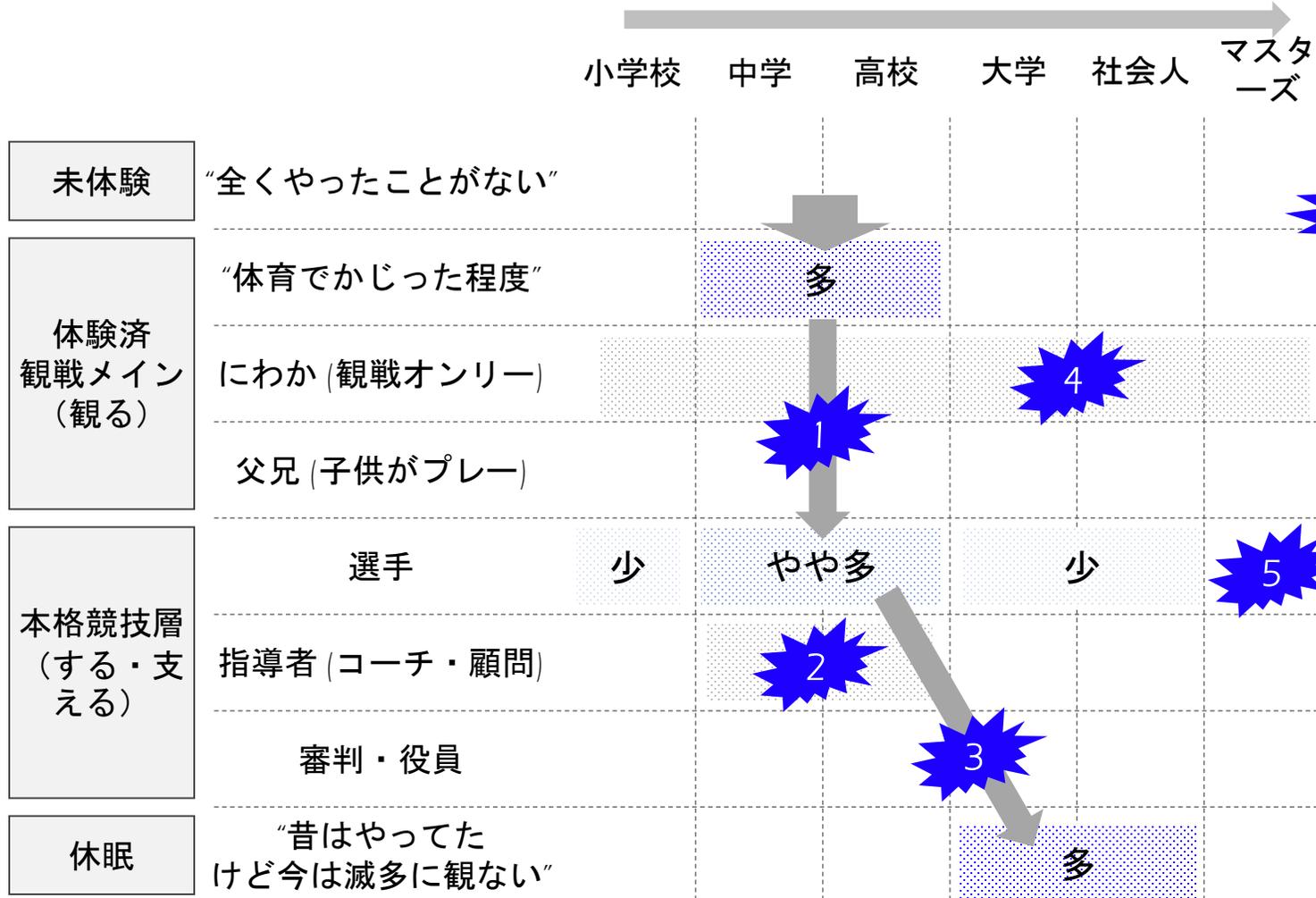
セグメント別の現状課題分析を実施 (次項)

恵まれている点もある一方で、課題も多い。本来持っているポテンシャルを生かし切れていない状態

◎他競技に比べて恵まれている点

- 体育の授業やハンドボール投げに採用 = “かじったことがある” 人は多い
- ハンドボール部があるため、中・高の競技者は一定数存在

ハンドボールとの関わり方

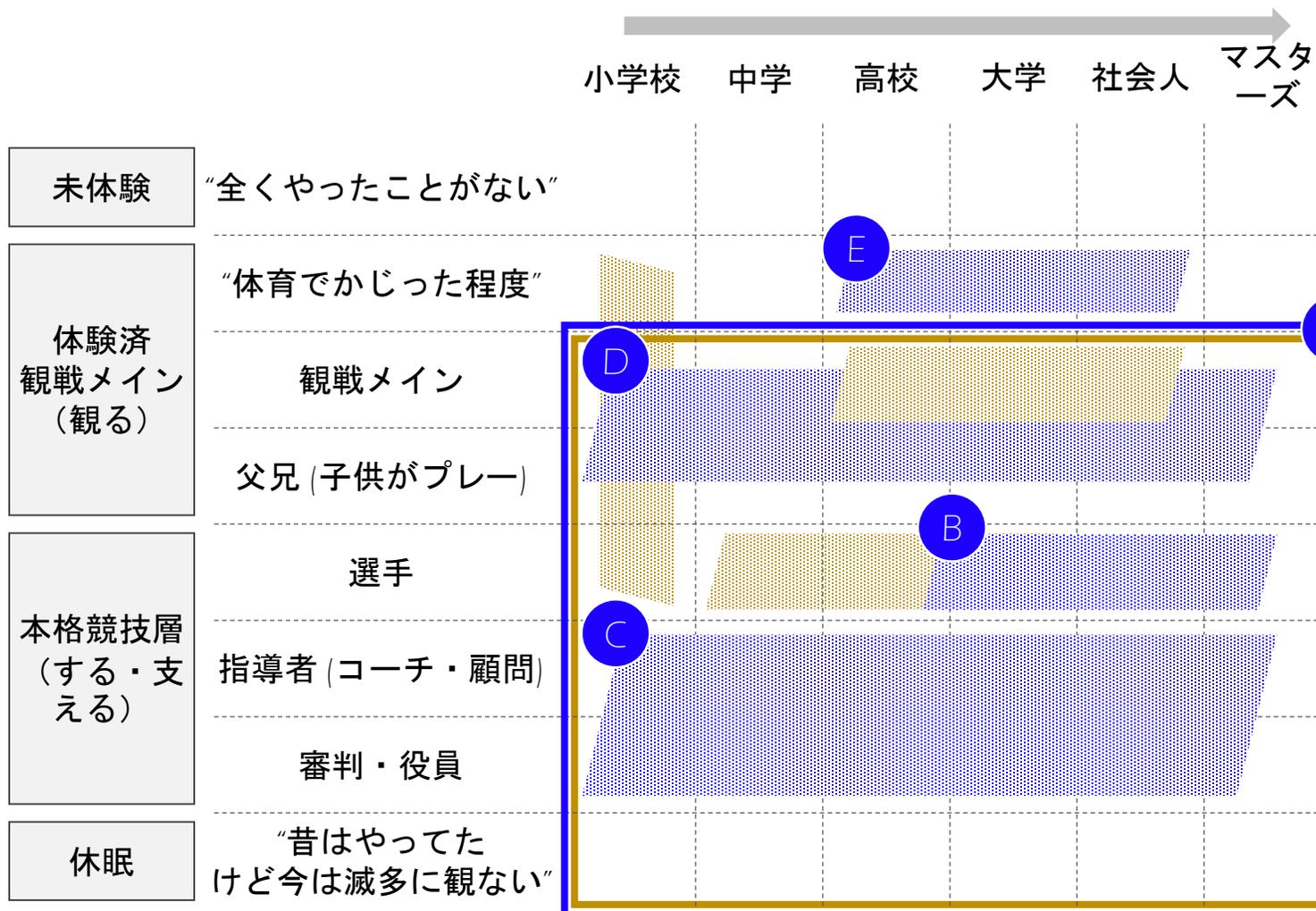


課題

1. 「途中から始められるスポーツ」としての**想起がまだ弱い**
(本来もっと中・高で部員取れるはず)
2. 適切な技術指導やコーチングを行える**指導者が不足**
(途中退部の要因に)
3. ほとんどが**大学進学で離脱**
(大学では部活・サークルともに少ない)
4. 観戦機会そのものや、**エンタメ性の不足**
5. カテゴリによっては**登録無しのままプレー**できてしまう場面も

本事業を通じて、4年間で5つのプロジェクトを実行

ハンドボールとの関わり方



- A 全年代・全員の出場試合スタッツを会員サイト上で個人に紐づけて管理
試合スタッツ全網羅 PJT
- B 高校卒業後もカジュアルにハンドボールを続けられる機会・気運づくり
Over18 PJT
- C デジタルを活用した研修・マッチング提供
指導者・審判・競技役員サポート PJT
- D リーグの試合動画を再編集してPV化
横断的な露出による観戦きっかけづくり
動画再活用 PJT
- E ハンドボール自体のポジショニング再定義
シンボルアスリートの輩出と露出
攻めの広報 PJT

試合スタッツ 全網羅 PJT

実施事項

※2021年3月利用開始時に向けて下記の機能を実装

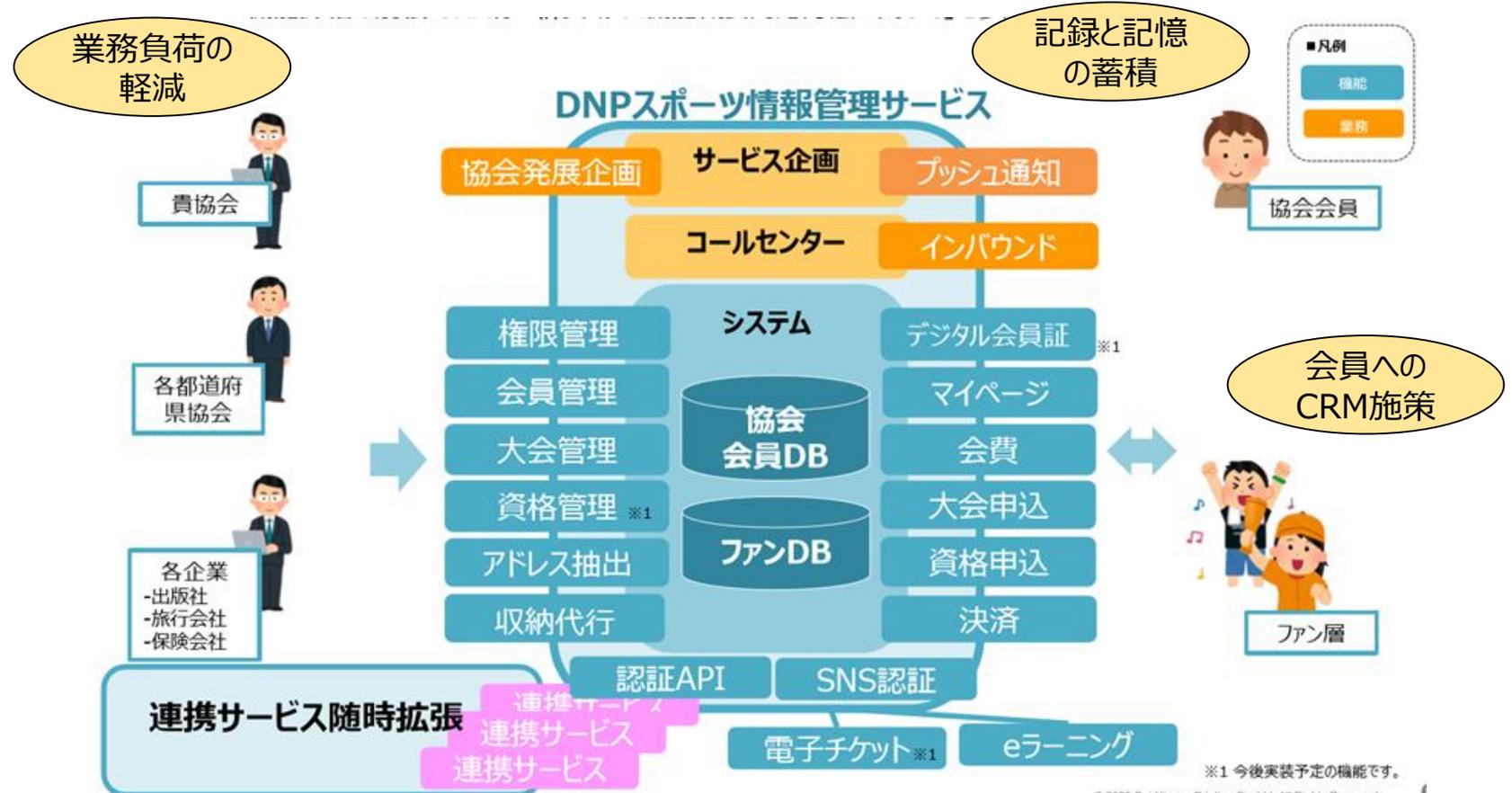
- ・ 会員登録
- ・ チーム登録/メンバー登録
- ・ 審判登録
- ・ 協会役員登録
- ・ 年会費支払い
- ・ 会員証
- ・ チーム登録者一覧 (PDF)
- ・ 集計/検索

マイハンドボール

大日本印刷 (以下、DNP) のスポーツ情報管理サービスをベースに、審判や指導者も含めたすべてのハンドボール関係者向けの会員システムを構築。

まずは潜在的な競技者を顕在化させるため、試合に出るための競技登録システムから、ハンドボールに関わる全ての人を対象とした会員システムに移行。

今後は、今まで紙ベースで保管していた試合記録をデータベース化し、大会写真・映像等とともに競技者個人と紐付けができるよう進めていく。



© 2020 Dai Nippon Printing Co., Ltd. All Rights Reserved.

Over 18 PJT

実施事項

- ・大会実施に向けた方針検討
- ・実態調査アンケート
- ・アンケート集計

日本ハンドボール協会
実態調査アンケート
～日本ハンドボール界の未来を変える～

期間 2月1日(月)～2月7日(日) 23:59

アンケートに回答いただいた方の中から抽選で日本代表レプリカTシャツを50名様にプレゼント

高校卒業後の競技機会が激減するため競技から離れる人が多いことから、日本ハンドボール協会主催で高校卒業後もカジュアルにハンドボールを続けられる機会・気運づくりを計画。

競技者がなぜ高校卒業後にハンドボールから離れているのか、

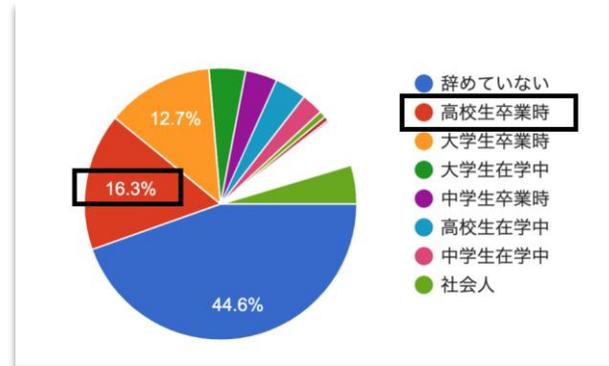
競技者登録していないだけでハンドボールを辞めているわけではないのではないか、

競技機会を本当に求めているのか、

これまで上記のような実態を把握するための調査は行なっていなかったことから、まずは実態調査を目的としたアンケートを実施（回答数2,603人）。

令和2年度2月初旬でのアンケート実施のため集計途中ではあるが、現時点で下記のような結果が見えてきている。

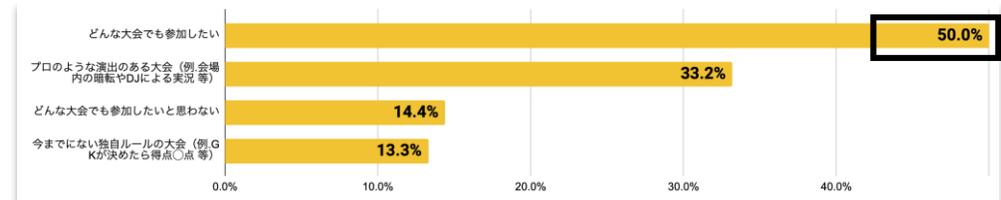
●ハンドボールを辞めたタイミングは「高校卒業時」の回答が最も多い



●辞めた理由は「節目（引退/就職/引っ越し等）」「環境（活動場所）」の回答が多い

選択肢	コメント例①	コメント例②	コメント例③
節目（結婚・就職・引退・仕事・卒業）	就職の為	引退したからです	高校を卒業したため。
環境（活動場所）	転勤がきっかけで地元のチームの練習に参加できなくなったため。また、東京でもやることも考えたが、クラブもわからず参加している選手の熱心度がわからなかったため。	高校を卒業後専門学校に進学し、プレーする環境(東京区部で活動している社会人チームが少くない等)や時間がなく、観戦はするが自分がプレーをすることは諦めた	就職先や近所にハンドボールチームがなかったから

●大会への参加とは「どんな大会でも参加したい」が回答の50%と最も多い



※複数回答可

動画再活用 PJT

実施事項

- ・ JHLTVの改善
 - 簡単に観られるプラットフォーム (YouTube) でのライブ配信とアーカイブ配信
 - 解説/実況を追加
 - カメラ台数を+1台追加
 - YouTube内での映像サムネイルの改善と統一
 - 前回試合のハイライト配信
 - 試合映像をすぐにリーグやチームが再活用できるようなスキームの構築
- ・ 動画再活用
 - JHL及びプレーオフのプロモーション目的でのハイライト映像配信

ハンドボールのトップリーグである「日本ハンドボールリーグ (JHL) 」は試合会場となるアリーナが不便な場所となることが多いなど集客に苦戦している。

また、試合映像もテレビ中継はなく、インターネット動画配信 (JHLTV) も従来は引いた1カメラで会場音声のみであった。

より多くの方にハンドボールを観てもらおう、その中でハンドボールの魅力をより伝えるためにJHLTVにおいて改善を実施。

また3月のリーグチャンピオンを決めるプレーオフに向けて、2月より動画素材を再活用してハイライト映像の配信を開始。映像を通してハンドボールの魅力を伝え、試合会場への集客はもちろん、オンラインでの視聴を伸ばしていくためのプロモーション活動としていく。

JHLTVの改善

-視聴促進/ユーザー体験向上に向けた改善-



動画再活用

-JHL及びプレーオフに向けたプロモーション-



攻めの広報 PJT

実施事項

- ・ハンドボール自体のポジショニングを再定義に向けて、実態調査アンケートを実施
- ・世界選手権でのメディアやSNSでの発信を強化

※以下、実施事項を一部抜粋

- ・合宿実施、メンバー発表などの情報リリース・11月、12月の合宿時にSNSで様子を発信
- ・12月の合宿時にプロカメラマンが選手スタッフのプロフィール写真を撮影
- ・メンバー発表時に写真入りリストをHPに公開
- ・プロカメラマンがチームに帯同し、素材を広報チーム（日本）へ常時送付
- ・SNS発信に写真素材を利用してクリエイティブを活かした情報発信
- ・試合後、公式マッチレポートを登録メディアへメール送信
- ・振り返りコメント（監督、主将など）のSNSへの掲載
- ・JHA広報マーケティング本部からファンを対象に、今大会についてアンケートの実施（回答数1,556人）

ハンドボール自体のポジショニングを再定義に向けて実態調査アンケートを実施（回答数2,603人）
令和2年度2月初旬でのアンケート実施のため集計途中ではあるが、以下のような結果が見えてきている。

特定選手(シンボルアスリート)の露出を強化することによるハンドボールへの憧れの醸成については、以下の再定義の内容からも他競技から転向してきた選手を取り上げていくことを検討している。

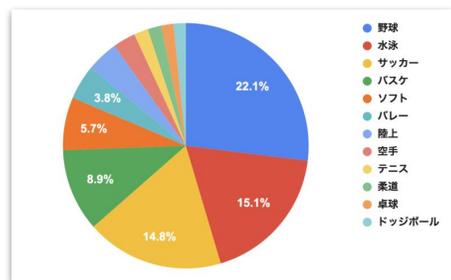
また、攻めの広報として世界選手権ではメディアやSNSでの発信を強化。

大会前から大会後まで左記のような施策を実施し、Twitterでは「#彗星JAPAN」でトレンド入り祭りとして発信強化を行ったことで実際にTwitterのトレンド入りも果たし、オンライン上での盛り上がりを意図的に創り上げた。

ポジショニングの再定義

-アンケート結果に基づく定義づけ-

- 他競技からハンドボールへの転向が多い
- ハンドボールの魅力は、身体能力の高さや競技性からくる面白さ



Q.ご自身の子どもがハンドボールを始めさせることに対する回答理由

回答カテゴリ①	回答カテゴリ②	回答カテゴリ③	回答カテゴリ④	回答カテゴリ⑤
競技が面白い	本人の意思	身体能力の強化に繋がる	チームスポーツだから	親が経験者

【ハンドボールのポジショニング(魅力)を再定義】

- ・他競技から転向しても活躍できる
- ・身体能力の高さ、プレーの激しさ

世界選手権での広報活動強化

-戦略的な盛り上がりの醸成-

- 「トレンド入り祭り」の仕掛けによるトレンド入り



- 外部メディア(スポーツナビ)への投稿強化



ハンドボール界の未来を創り上げるための取組を主に実施

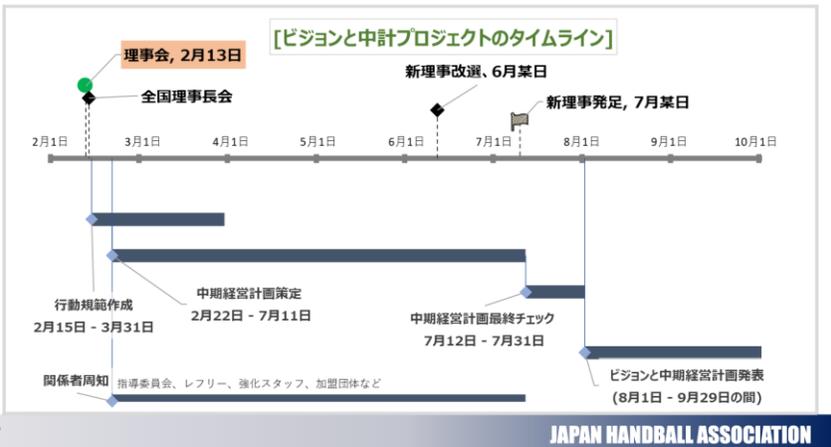
ビジョン・ミッション・バリュー(VMV)策定

JHAは、定款第3条に定められた目的(この法人は、日本におけるハンドボール競技界を統轄し、代表する団体として、ハンドボール競技の普及及び振興を図り、もって児童・青少年の健全な育成及び国民の心身の健全な発達に寄与し、体力の向上と豊かな人間性を涵養することを目的とする)を、事業・活動の「ビジョン」としてきた。

現在、様々な活動を行っているが、JHAとして、どのような価値を世の中に提供していきたいのかは明確に言語化されていない。VMVを策定して、JHAに携わる全ての方々の活動の礎としたいという思いからVMV策定を実施。

4. 今後のスケジュール

ビジョン、ミッションを元に中期経営計画および行動指針を策定し、新理事発足後ビジョン、ミッションと中期経営計画を公表します



スポーツ庁「Sport in Life推進プロジェクト」 実証イベントの実施

スポーツ庁による自治体・スポーツ団体・経済団体・企業などが一体となり、国民のスポーツ参画を促進するプロジェクトとして「Sport in Life プロジェクト」が実施され、東商アソシエイト株式会社、大日本印刷株式会社、イオンモール株式会社、公益財団法人日本ハンドボール協会、公益財団法人横浜市スポーツ協会のプロジェクトチームにて本事業に応募して採択された。

イオンモール幕張新都心などにおいて、ハンドボール体験としてプロジェクトで撮影したゴールネットとGKに向かってボールを投げて得点を競うゲームや指導者がワンポイントレッスンをを行い、競技への理解を深めるなど、日常生活のショッピングの中で気軽にできるスポーツ体験を提供する実証イベントを実施。

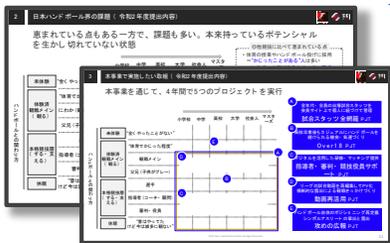


目次

1. 本事業における方向性（全体像）
2. 成長曲線シミュレーション
3. 日本ハンドボール界の現状と課題
4. 令和2年度実施報告
5. 令和3年度実施計画

アンケート調査の示唆も活用しながら、5つのプロジェクトを具現化する。
(さらに本事業の外側でも、VMV策定や協賛企業との共同マーケティングを推進中。全体での経営力強化を図る。)

スポーツ庁採択済



JHAならではの言語化
VMV*策定
21年7月リリース

*ビジョン・ミッション・バリュー



*21年2月 アンケート調査によりニーズを確認済

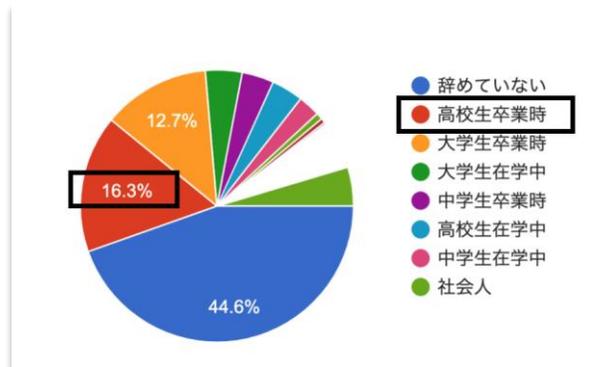
B

Over 18 PJT

①ハンドボールの“する”機会の創出

高校卒業以降でハンドボールをする機会が減っていること、大会としてはどんな大会でも参加したいと意欲が高い回答結果からも、高校卒業以降に競技者が楽しめるような大会を日本ハンドボール協会主催として令和2年度の計画通り進めていく。

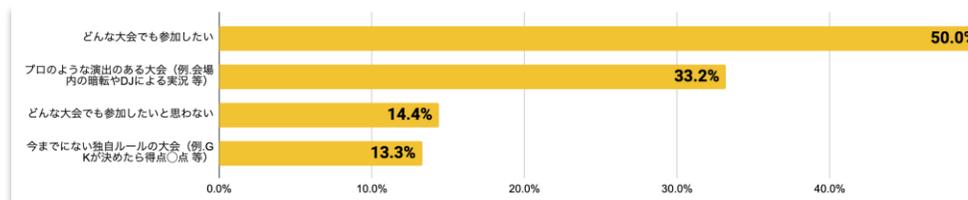
●ハンドボールを辞めたタイミングは「高校卒業時」の回答が最も多い



●辞めた理由は「節目（引退/就職/引っ越し等）」「環境（活動場所）」の回答が多い

選択肢	コメント例①	コメント例②	コメント例③
節目（結婚・就職・引退・仕事・卒業）	就職の為	引退したからです	高校を卒業したため。
環境（活動場所）	転勤がきっかけで地元のチームの練習に参加できなくなったため。また、東京でもやることも考えたが、クラブもわからず参加している選手の熱心度がわからなかったため。	高校を卒業後専門学校に進学し、プレーする環境(東京区部で活動している社会人チームが少ない等)や時間がなく、観戦はするが自分がプレーをすることは諦めた	就職先や近所にハンドボールチームがなかったから

●大会への参加とは「どんな大会でも参加したい」が回答の50%と最も多い



②ハンドボールの“みる（触れる）”機会の創出

試合観戦頻度としては試合会場では年に1回程度が最も多い回答となっており、一方でオンラインでの試合観戦は月2~3回、週1回以上の回答が多い結果になっている。会場での観戦頻度を増やす施策も実施していく必要があるが、「日本ハンドボールリーグ（JHL）」は試合会場となるアリーナが不便な場所となることが多いこともあるため、まずはオンラインでの「みる（触れる）」機会を増やしていく。そのために、試合ライブ配信（JHLTV）の改善やその試合映像を再活用したプロモーション施策、また選手を活用した企画映像コンテンツの配信などを行いながら、ハンドボールの魅力をより多くの人に届けていく。

D

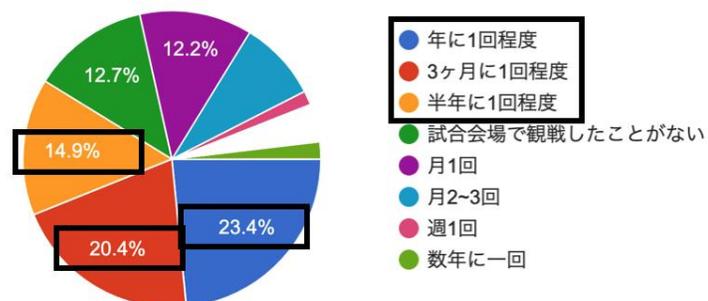
動画再活用 PJT

E

攻めの広報 PJT

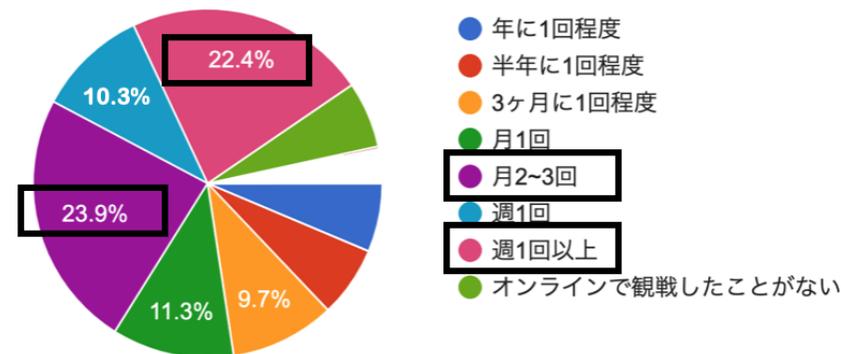
●試合観戦会場での観戦頻度は低い

Q.試合会場での観戦頻度（コロナ禍以前）



●一方でオンラインでの試合観戦頻度は比較的高い

Q.オンラインでの観戦頻度



E

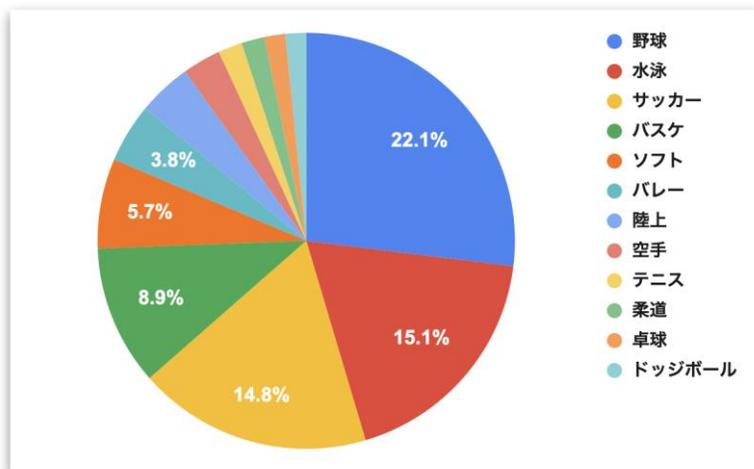
攻めの広報 PJT

③ハンドボールのポジショニング再定義

アンケート実施のため集計途中ではあるが、下記のような結果が見えてきていることから、ハンドボールのポジショニングの再定義としては、「他競技から転向しても活躍できる」「身体能力の高さ、プレーの激しさ」としていくことを検討している。

また、1月に行われた男子世界選手権で主力として活躍した吉田守一選手は中学までバスケットボールをしており、高校からハンドボールを始めている。今大会は怪我で出場できなかったものの日本代表として活躍する部井久アダム勇樹選手もソフトボールからの転向である。特定選手(シンボルアスリート)の露出を強化することによるハンドボールへの憧れの醸成については、上記の再定義の内容からも他競技から転向してきた選手を取り上げていく。またハンドボールの魅力である身体能力の高さやプレーの激しさも企画コンテンツを通して多くの人に届けていくことでハンドボールへの憧れや関心を高めていく。

●他競技からハンドボールへの転向が多い



●ハンドボールの魅力は、身体能力の高さや競技性からくる面白さ

Q.ご自身の子どもがハンドボールを始めさせることに対する回答理由

回答カテゴリー①	回答カテゴリー②	回答カテゴリー③	回答カテゴリー④	回答カテゴリー⑤
競技が面白い 楽しい	本人の意思	身体能力の 強化に繋がる	チームスポーツ だから	親が経験者

【ハンドボールのポジショニング(魅力)を再定義】

- ・他競技から転向しても活躍できる
- ・身体能力の高さ、プレーの激しさ

試合スタッツ 全網羅 PJT

コンセプト

会員サイトを単なる情報基盤で終わらせず、個々人の生涯のプレーログが蓄積される場にする。

「データを見続けたいから競技登録を残す」という**動機付け**を行い、登録料収入の拡大へ。

具体案

マイハンドボールに以下の機能を追加開発。全年代の試合スタッツを蓄積/コンテンツ活用する

- 既存の試合スタッツExcelからデータを抽出/集計/表示
- 生涯得点や地域別ギネスランキングの作成/表示

2021年3月に競技者・関係者登録向けにマイハンドボールをリリース
その後、本プロジェクトでもある大会機能、拡張機能（ファン向け）の実装も進めていく



●展開プラン サマリ

	1. 競技者・関係者登録	2. 大会機能	3. 拡張機能
提供機能	<ul style="list-style-type: none"> ・会員登録 ・チーム登録/メンバー登録 ・審判登録 ・協会役員登録 ・年会費支払い ・会員証 ・チーム登録者一覧 (PDF) ・集計/検索 	<ul style="list-style-type: none"> ・大会登録 ・大会申込 ・大会情報ダウンロード ・試合結果登録 ・My Page反映 ・写真アップロード ・フォトギャラリー ・チケット販売 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファン登録 ・ファンクラブ登録 ・大会以外のイベント登録
利用開始	<p>3/1より一部エリアでパイロット利用スタート</p> <p>3/15より全国展開。チーム・競技者登録スタート</p> <p>4/1より審判登録スタート *協会・連盟役員登録は5月以降</p>	調整中	調整中

Over 18 PJT

コンセプト

高校卒業後もカジュアルにハンドボールを続けられる機会・気運づくり。

ハンドボールに「本気～ゆるく」まで幅広く関われる機会をつくることでハンドボール人口の向上に繋げていく。

具体案

社会人大会に大学生も登録可能とすることで、機会を作り出す。

- 年1~2回の定期的な社会人大会の開催
- 年1回のハンドボールフェスの開催

アンケート結果からも大会実施に向けて準備を進めていく
大会の詳細は各地方協会等からPJTメンバーを募る形で仲間を増やしながら詰めていく

各SNSメール、WEBサイト、
JHA会員サイトで知るきっかけづくり。



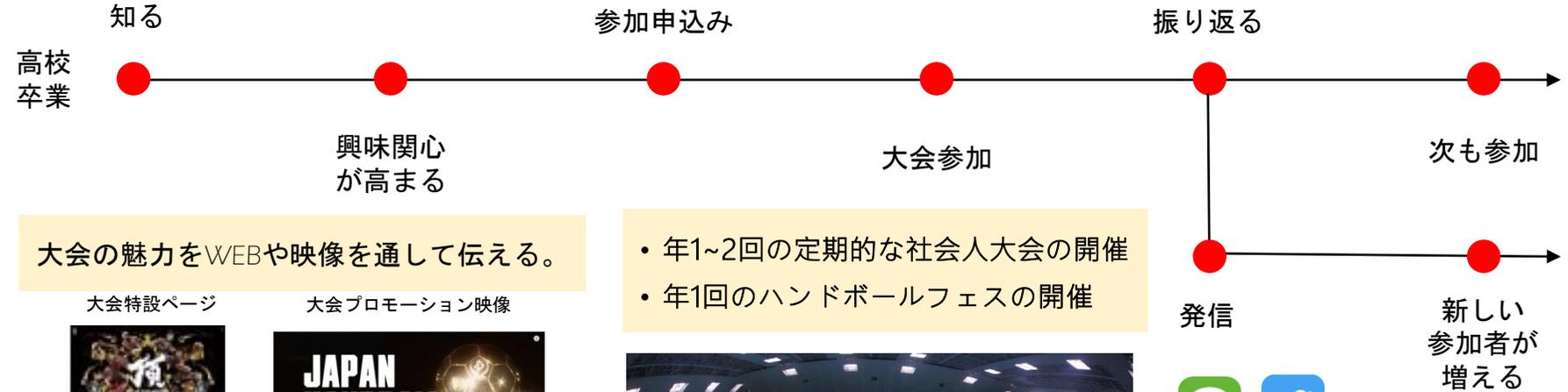
マイ
ハンドボール

大会について
知る

マイ
ハンドボール

大会の個人成績やチーム成績を見たり、
プレー写真なども見て振り返ることができる。
また、その写真などを発信することで情報が広まる。

なんでもランキング (2019年度)	
××××××××××	1位
××××××××××	3位
××××××××××	20位



大会の魅力をWEBや映像を通して伝える。

大会特設ページ



大会プロモーション映像



- 年1~2回の定期的な社会人大会の開催
- 年1回のハンドボールフェスの開催



指導者・審判・競技役員サポートPJT

コンセプト

最前線で競技に携わっている三者に対して、適切な研修機会や業務支援を提供する

具体案

eラーニングシステムを準備し、既存の研修用アセットとともにJHA会員サイト上に連携

- コンプライアンス研修
- 技術指導、トレーニング方法

並行して、以下も実施

- 指導者資格の再整理
- 大会運営業務の電子化&効率化

2021年8月での「マイハンドボール」への連携に向けて準備を進めている

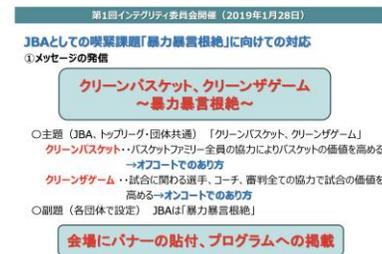
指導者向けサポート

技術指導の具体知識



- ✓ 他協会の事例も参考に、コンテンツを制作
- ✓ 必要な部分は動画やマンガ化し、利用しやすく

コンプライアンス研修



マイハンドボールと連携により

- ✓ 受講歴の確認
- ✓ 指導年数に応じた報奨
- ✓ 指導者と指導者不足クラブのマッチング

なども可能に。

審判向けサポート



- ✓ 既存の「指導委員会YouTubeチャンネル」の資産も活用
- ✓ コンテンツをさらに拡充

競技役員向けサポート



- ✓ 大会参加者の抽出・一覧作成・結果のアップロードなど、従来のアナログ業務をJHA会員サイトで効率化

動画再活用 PJT

コンセプト

リーグの試合動画を再編集してPV化、横断的な露出による観戦きっかけづくり。

映像のチカラを活かして、ハンドボールを知る・興味関心が高まるきっかけをつくることで、ハンドボール人口向上を目指す。

具体案

- JHLTVの改善
- ダイジェスト番組製作
- プロモーション映像制作
 - ↳ ハイライト/試合告知

2020-21シーズンではJHLTVの改善とプレーオフに向けてハイライト映像制作を実施
2021-22シーズンから動画再活用によるプロモーション強化ができるように進めていく

【JHLTVの改善】

撮影カメラや解説の追加、映像内での見せ方の工夫などこれまでの「ライブ配信で試合映像を流す」だけから、ユーザーが楽しめる工夫を実装していく。
※こちらは協会内別予算で実施中



動画再活用

【（施策事例）ダイジェスト番組製作】

毎週試合のダイジェストをウィークリーダイジェストなどとして、ハンドボール解説者などを交えて「わかりやすく」振り返っていく。ハンドボール未経験者にもハンドボールの魅力を伝えることを意識した番組構成としていく。また試合以外にも選手のインタビューや密着映像などのコンテンツも入れていくことで、選手価値向上にも繋げていく。



【（施策事例）プロモーション映像制作】

撮影カメラを増やすことなどで映像の質向上に繋がり、様々な視点からハンドボールの魅力を映像を通して伝えやすくなる。その起点を活かし、試合ハイライトや試合告知映像を毎節制作していくことで、ユーザーにハンドボールの魅力を映像のチカラで最大限に伝えていき、興味関心を高め、ハンドボールファンの増加に繋げていく。



攻めの広報 PJT

コンセプト

ハンドボール自体のポジショニングを再定義。

戦略的に**特定選手(シンボルアスリート)の露出を強化**。「ハンドボールをやってみたい」「やっていてよかった」の感情醸成。

具体案

- ハンドボールのポジショニングを再定義
- 戦略的なシンボルアスリートの輩出と露出機会づくり

アンケート結果から下記のようにポジショニングを再定義
他競技からの転向で活躍している選手を中心に露出機会を増やしていく

【ハンドボールのポジショニングを再定義】

- 他競技から転向しても活躍できる
- 身体能力の高さ、プレーの激しさ

【戦略的なシンボルアスリートの輩出と露出機会づくり】※以下施策事例



部井久アダム勇樹

現日本代表。小学生の頃はソフトボールをしていたが、タレント発掘キャラバンを機にハンドボールに転向し、高校3年生で日本代表に。



吉田 守一

現日本代表。中学生の頃はバスケットボールをしていたが、もっと自分の可能性を生かせるとハンドボールに転向し、現役大学生ではあるが海外リーグでプレーし、日本代表としても活躍している。



土井レミイ杏利

現日本代表。フランスリーグでプレーするなど世界も経験してきている選手でありながら、ハンドボール以外でも注目を集め、TikTokのフォロワーは100万を超えるほどの人気。

■webメディアの活用

選手の人生ストーリー（他競技からの転向等）などを記事コンテンツとして掲載していき、多くの人に選手の背景を知ってもらうきっかけをつくっていく。協会サイト内に掲載するだけではなく、SPORTTIMESやスポナビなどの外部メディアも活用しながら露出機会を増やす。

■動画制作（プレー集/プライベート密着）

シンボルアスリート候補3選手程のプレー集やプライベート密着映像を制作していくことでより選手を知ってもらうきっかけにする。プレーだけではなくアナザースカイ風にプライベート感のある映像もつくることで共感を高め、ファン増加に繋げていく。また、ハンドボールの魅力の一つである「身体能力の高さ」が伝わるような「ハンドボール選手が〇〇やってみた」などの企画映像コンテンツも検討していく。

■代表コンテンツページ改修および新規ページ制作（webサイト内）

現在の日本ハンドボール協会のサイト内には、カテゴリーごとに代表のページはあるものの、選手ページなどは存在しない。より選手の情報を届けていくためにも、選手ページはもちろん、記事や動画を掲載するコンテンツページなども制作していく。



本件についてのお問い合わせ

公益財団法人 日本ハンドボール協会
担当: 清水

Email: s-shimizu@japan-handball.jp

Tel: 03-6709-8940